



「福澤記念育林友の会」ニュース

第5号 発行日 2003年12月10日

福澤育林友の会

東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾 管財部 管財課

T E L 03-5427-1532

F A X 03-5427-1533

<http://www.f-ikurin.jp>

第2回トークショーを開催

第2回トークショーは、去る5月31日、慶應義塾大学において、同大学の名誉教授鈴木孝夫先生をお迎えして開催されました。先生は東京生まれの東京育ちでいらっしゃいますが、目黒区にある西郷山近くのご自宅は都心には珍しく森や池の残る自然に恵まれた環境で、幼い頃から鳥や蝶そして植物と、生き物すべてを愛する気持ちを育まれたようです。教授時代も折りあるごとに軽井沢に赴かれ自然と親しんでいらっしゃいましたが、退官後は一年のうち冬以外のほとんどを軽井沢で過ごされています。屋外で体を動かし、既製品の物や娯楽で楽しむのではなく自分で想像し体験して感じる自家発電型の楽しみ方をモットーに過ごしていらっしゃいます。また、豊かさと便利さを掲げた人間本位の経済原理が大手をふるい地球の資源が無駄使いされている戦後の世界状況を憂い、対する概念として、地球の安定的な存続に対して自分の行為がプラスになるのかマイナスなのかを考える「地球原理」を提案、人間は「地球原理」の上になんて行動すべきだとおっしゃっています。地球上すべての動植物と仲良く生きてきた人間が戦後いかに人間中心へと暴走していったか、政治、宗教、教育と多方面からユーモラスなエピソードを交えてお話下さいました。ビキニスタイルから地球温暖化まで巾広い逸話とお人柄に魅了され、会場は絶え間ない笑いとともにご主張のひとつひとつに頷いていました。



慶應義塾大学鈴木孝夫名誉教授

福澤記念育林会の岡山研修旅行に参加して

平越國和
真澄

9月6、7日と二日間に亘って行われました育林友の会の研修旅行には妻真澄と二人で参加させていただきました。ご案内状を頂きまして、会員でありながら今まで一度も参加したことのない当会の催しに是非行って見ようと意を強くして妻を誘いました。彼女も山や自然が大好きで時々山歩きやハイキングをしているのですが、この話を持ちかけてみると是非行って見たいということになりました。今回は岡山で開催されるということで自宅の奈良県から比較的近いので、車で岡山まで行くことにしました。

快晴の当日、岡山駅の集合場所ではお世話役の塾管財課の方々がおられ、そこで出席のチェックを受けたあとやや緊張しながらバスに乗り込みました。

第2回トークショー開催	1
岡山研修旅行に参加して	1
石川尾口の森-除幕式	3
今後の行事予定	4



オリーブ園からの風景
長島昭教授のスケッチ

参加者の中にはたぶん知人はおられないだろうと思っていましたが、関西不動産三田会の黒木さんご夫妻や古武さん、松岡さんがおられて一安心しました。暫く致しますと関西の合同三田会や幹事会でお会いする長島前常任理事や田中俊郎常任理事が乗ってこられましたので大変懐かしく感じました。

服部興業さんの車の誘導で岡山駅を出発して一路、山林を寄贈される服部様の山へと走り出しました。途中、中国自動車道に乗り落合インターで下車してから 30 分ほど山道を登って目的地の山に到着しました。山の玄関には立派な木製の看板が設置され、それには塾の大きな三色旗が覆い被さって除幕式を待っていました。田中、長島の新旧育林会理事長がご挨拶をされ、その後に寄贈されるご当主の服部様のご挨拶があった後、厳粛に除幕式が執り行われました。

当山は赤松や広葉樹が元気よく生育し、うっそうとした森を形成していました。以前はこの山ではよくマツタケが採れたそうです。森の木々には、前もって学生さん達がネームプレートを取り付けてくれていましたので樹種が良くわかりました。

参加者や世話人の方総勢 30 名余りを乗せたバスは、1 時半ごろに暫く山を見学させて頂いてから参加者のほとんどがウォーキングで服部様の別荘までの約 3km ほどの道のりを散策しました。途中、手入れの行き届いた服部様の立派な杉の植林地の横を下って行きました。林道の横を流れる清流のせせらぎを聴き、森林の生気を胸いっぱい吸い込みながら服部様の山荘へと向かいました。

たどり着いた別荘は、現地の森林の木材をふんだんに使った何とも言えない優雅な山荘でした。目の前には湖が広がり、まるでスイスの山小屋にいるような錯覚を覚えました。私たち一行はそこで暫くの間、お茶やお菓子を頂き休憩をさせていただいて汗をぬぐいました。この山荘は現在服部様の会社の研修所にお使いになっておられるとのことで、将来はこの別荘でのんびり過ごすことが夢であると言っておられました。

夕方、バスで岡山市内の投宿先である岡山国際ホテルに入りました。夕食会は地元岡山の三田会の会長さんや世話役の方も同席されて賑やかな食事会になりました。同じ慶応義塾で学んだ塾員や家族の方々ですので、あっという間に打ち解けて夜の更けるのも忘れて晚餐会に興じていました。

明るく日のエキスカッションは参加者全員がバスに乗り込み、広大で見事に手入れされた後楽園を見学した後、日本のエーゲ海と言われる、瀬戸内の海面が鏡のように美しい風光明媚な牛窓に行きました。

この地で服部様の一族が経営されている 2.5ha のオリーブ園を見学させていただきました。この園ではオリーブの樹木が 2000 本も植えられていて、壮大な果樹園に大勢の観光客が訪れていました。こちらの会社は本場のスペインでも 4ha のオリーブ園を経営されているそうです。

私達はオリーブ園の会社の方が精魂込めて巨大な鉄鍋で料理されたパエリアと本場から取り寄せられたワインでお昼ご飯を頂きました。

その後、速水様の奥様のお世話で備前焼の窯元、藤原啓記念館の見学と陶芸の手作り教室で創作に汗（冷や汗？）を流しました。



うっそうと茂った森



除幕した看板



ネームプレートを見ながら



服部様の山荘



後楽園



たった二日間の研修旅行でしたがじつに実りの多い旅でした。時を超え、場所を超えて、塾の絆の強さと深さをつくづく感じました。これからも出来るだけこのような研修会に参加させて頂きたいと思っています。

当日親身にお世話を頂きました服部様ご夫妻や塾の管財課の方々、そしてフォレストクラブの皆さんほんとうに有難うございました。

オリーブ園



陶芸体験に取り組む



三谷様からご説明を頂く



いよいよ除幕



除幕完了



揃って記念撮影

「石川県の森」看板除幕式

去る 10 月 1 日石川県の尾口村において、三谷充様からご寄贈を頂いた「石川県尾口の森」の看板除幕式が行われました。

当日は三谷様をはじめ、北陸三県三田会、金沢三田会、尾口村山崎村長、育林会の田中理事長、海瀬理事、に加え慶応義塾管財部の紺野部長と岩永課員が参加しました。

この式典に当っては、三谷様が経営する三谷産業の社員の全面的なご協力のおかげで、遠隔地であるにも拘わらずスムーズに行事を進める事が出来ました。

日本海側で初めての福澤記念育林会の山林をご寄贈頂いた三谷様と会社の皆様にご心から感謝申し上げます。また当日ご参加頂いた北陸 3 県の三田会の皆様にも改めて御礼を申し上げます。

山林の所在する尾口村は小松空港から車で約 1 時間 30 分、石川県南部の白山麓に位置し、山菜、ワサビの栽培、イワナ、ニジマス等の養殖が盛んな土地です。また、自然の環境を生かした観光、スキー場やテニスコート、露天風呂、景色眺望などの行楽地として若者に人気があり、活気にあふれています。さらに、文化的にも重要無形文化財の「東二口文弥人形浄瑠璃」が有名で訪れる価値のある村です。

特に、近くの溪流は白山から流れる豊かな水量を誇り、天然の岩魚など溪流釣りを楽しむ人々にとっては垂涎の地域となっています。

また、小松から尾口村への道中には美味しい蕎麦屋がありこの地ならではのソバの美味を楽しむ事が出来ます。

尾口村を起点とする白山スーパー林道は吉野谷村を經由して岐阜県白川郷へ通じる全長 33 km の完全舗装された有料道路です。沿線は天然ブナ林を始め動植物が豊富で植物を例にとると「ハクサン〇〇」と名づけられたものだけで 30 種に及ぶと言われています。

野生動物もツキノワグマを始め数多く生息していることが知られています。また、山肌を切り取った場所では 1 億数千年前の恐竜時代の地層も露呈しており興味の尽きない場所です。

このような素晴らしい地に山林を寄贈頂いたことは願ってもないことで、「育林友の会」のフィールドとして是非会員の皆様方

と改めて訪れてみたいと考えています。

石川県尾口村の紹介



中央●の箇所が尾口村



小松空港から車で約1時間余り



東二口文弥人形



白山瀬女高原



白山スーパー林道



新岩間温泉



新里温泉



円山公園（蛍が有名）



石で築いた手取川ダム



ハーブの里

※ 写真は尾口村役場で頂いた観光資料から掲載させて頂きました。

今後の行事予定

平成16年春 慶応大学三田キャンパスでシンポジウム開催
平成16年夏 一泊研修旅行(宮城県志津川町または愛知県豊田市)
その他 出来れば東京近郊で日帰りハイキングを計画したいと考えています。

※ 詳細が決まり次第お知らせいたします。